

4. 高病原性鳥インフルエンザ発生時における動員者の安全確保 並びに迅速な防疫対応への取り組み

宇佐家畜保健衛生所

○加藤洋平・本多祥宏・(病鑑) 尾形長彦 (病鑑)・泉修平・吉田秀幸

【はじめに】

2010年度の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生を受けて、原則として病性判定後24時間以内に殺処分完了、72時間以内に焼却又は埋却完了が特定家畜伝染病防疫指針（指針）に明記された。そのため、発生農場で作業に当たる動員者は、現地情報も無いまま昼夜問わずの防疫作業を余儀なくされ、またより迅速な防疫作業の準備が求められる事となった。今回、発生農場動員者への安全確保を目的とした情報提供のための農場詳細情報調査、また、HPAI発生時の迅速な防疫対応のための埋却予定地のランク分け評価を実施したのでその概要を報告する。

【取り組み内容】

1 農場詳細情報調査

(1) 目的

発生農場で作業に当たる動員者への情報提供による安全確保を目的とし、以下の事項について調査を実施した。

(2) 農場配置調査

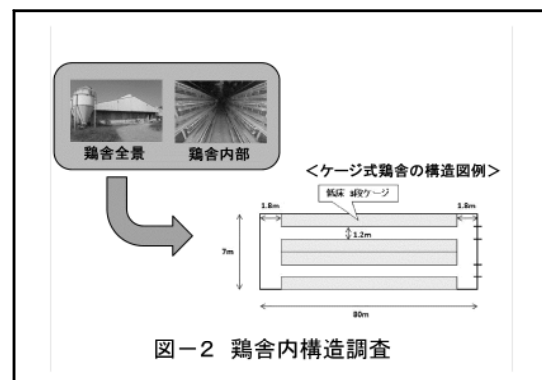
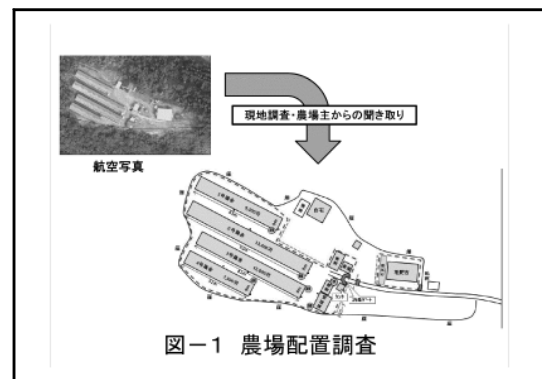
航空写真及び現地調査並びに農場主からの聞き取りにより、実際の鶏舎配置に合わせ図面化を行い、鶏舎寸法等を記載した農場配置図を作成した（図-1）。

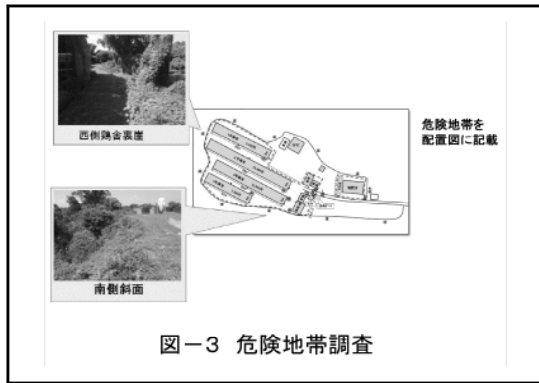
(3) 鶏舎内構造調査

鶏舎毎に鶏舎全景及び内部を撮影し、また、採卵鶏農場においてはケージの種類や通路幅、サービスルームなどを含め鶏舎内構造図を作成した（図-2）。

(4) 危険地帯調査

農場敷地内の危険地帯（崖、水路等）を撮影し、





農場配置図上の対応箇所写真と説明を記載した（図-3）。

2 埋却予定地ランク分け

(1) 目的および方法

より迅速な防疫対応に備える事を目的とし、各農場が準備している埋却予定地について、評価基準を作成し、ランク分け評価を実施した。

(2) 評価基準

埋却予定地の評価項目は、農場所有の埋却予定地の有無、埋却予定地の位置と農場からの距離（制限区域内外）、埋却地面積（埋却処分量に対する面積の確保状況）、土地の状態（立木や障害物の有無、傾斜や段差など）、重機の動線（道幅、進入路）、周辺状況（民家や施設の有無等）とした。

評価項目の組み合わせにより、総合評価として◎を埋却問題なし（十分な面積の予定地が確保されており埋却上の問題点もない）、○を埋却可能（十分な面積の予定地が確保されているが、埋却に際して対応すべき問題点がある）、△を埋却困難（埋却処分量に対して埋却予定地が不足している）、×を埋却不可能（農場所有の埋却予定地がない）の4段階にランク分けを行った。ランク分け評価例として、表-1に示す。

表-1 埋却予定地の評価基準

農場	埋却予定地の有無	農場敷地内外	埋却地面積	土地の状態	重機の動線	周辺状況	備考	総合判定
A	有	内	○	○	○	○		◎
B	有	外(1km)	○	×	○	○	・立木、障害物あり ・復旧の必要あり	○
C	有	内	○	○	○	×	・復旧の必要あり ・鶏糞防止帯が必要	○
D	有	内	×	○	○	○	・面積不足	△
E	有	外(12km)	○	○	×	○	・制限区域外 ・重機進入不可能	×
F	無						・埋却地無し	×

◎：埋却に問題なし ○：埋却可能
△：埋却困難 ×：埋却不可能

【取り組みの検証】

1 農場詳細情報調査

本調査で得た鶏舎配置図・鶏舎内構造・危険地帯等の情報について、本年度の本県特定家畜伝染病防疫演習時に農場内で殺処分などを実施する動員者への作業説明に活用したところ、動員者への農場把握に有用であることが示唆された（図-4）。



2 埋却予定地ランク分け

埋却予定地ランク分けの結果、管内94農場のうち、◎は46農場（49%）、○は15農場（16%）、△は16農場（17%）、×は17農場（18%）となった。このうち埋却可能以上（◎○）判定の農場は全体の65%を占めた（図-5）。

【まとめ】

これまで、発生農場で作業に当たる動員者の大部分は、現地情報もないまま慣れない防疫作業に従事することになる。実際、2011年2月の本県発生時における防疫作業中には負傷者が出ている。今回、農場詳細情報を作成することにより、動員者への情報提供による現地把握が可能となり、事故防止に役立つと考える。また、これらの情報は初動防疫計画の作成時にも有効に利用できるものとする。

また、埋却予定地ランク分けでは、埋却可能以上の農場が65%を占めた。それに対し、埋却困難・不可能と判定された35%の農場に対しては、新たな予定地を確保するように指導するとともに、HPAI発生があった場合に備えて公有地の利用並びに運搬経路について検討している。

今回の調査から、農場詳細情報および埋却予定地ランク分けを農場ごとに整理することにより、動員者の安全確保だけでなく、より迅速な初動防疫計画の作成並びに防疫対応につながると考える。

